

「キリストの望み」

～望みを受け継いでいますか～

ヨハネ 14 : 1～3

■ あなたは望みを持っていますか？

ゲーテが「彼らが当然そうあるべきように人々を扱いなさい。そうすればあなたは、彼らがそうあるべきものになるのを助けることになるだろう」という言葉を残しています。この言葉にあるように、私たちが人とどのように向き合いどのように考えるかによってその人の人生は大きく変わってきます。例えばこの人はダメだとあなたがレッテルを貼るならば、その時からその人はダメになってしまいます。私たち一人ひとりには神様によって役割をもって形づくられました。ですから自分についても、隣人についても、どのような役割があるのかを分かって接していく必要があります。人は、自分にはこういう役割がある、自分はこうなりたいというものと持っていないとその役割を果たすことはできません。そしてその時に必要なことは、神様からくる思いによって望みを抱くということです。昨今、多くの日本人の子育ては「あれはだめ、これはだめ」と頭ごなしに言い、なんでも手取り足取り教えてしまう傾向にあります。その子が自分で気付けるように伝えることができていないのです。その結果、言われないと何もできない子、言われたことだけしかできない子を生んでしまい、このことは社会問題になっています。私たちがしなければならないこと。それは神様の思いに立って相手に対してすべてを期待し、ただ待つだけではなく語りかけ、育てていくことです。もしその子が将来リーダーになるように神様から言われているのであれば、リーダーとはどういう存在なのかを示し、リーダーになる育て方をしてあげなければいけません。また、寄り添って癒す人になるのなら、その子が悲しいときに周りの大人が癒し、癒された経験を得なければいけません。これを相手と信頼関係を築き、望みを持って成し遂げていく必要があるのです。

■ イエス様の望み

イエス様はなぜ十字架にかかれたのでしょうか。ヨハ 14:2で私たちのために場所を備えて、つまり十字架にかかってくださいました。それはただあなたを愛し一緒にいたかったからで、あなたが罪のために神様の元へ帰れないことを望まなかったからです。ではなぜ、あなたはクリスチャンになったのでしょうか。それは信じたことが必ずなると確信されているからではないでしょうか。しかし、今までの人生はどうだったでしょう・・・憎しみ、裏切り、否定、偽り、人を傷つけ自分も傷つく人生ではなかったのでしょうか。そしてあなたは自分の人生に責任を持たないために多くの人に迷惑をかけてきたのではないのでしょうか。何度もやりますといいながら裏切ったにもかかわらず、そんな自分をどうして信じてくれないのと嘆く人生を繰り返していませんか。ここにどうして望みがもてるのでしょうか？そんなあなたのためにイエス様は十字架にかかれました。人間と同じように肉体を持ち、同じように弱さ、怠惰、感情を持っておられました。しかしそんな自分と徹底的に闘い、自らが言ったことを実現する道を選び成し遂げられました。ですから私たちも決心し、必ず成るという望みをもっていかなければいけません。イエス様の十字架を思うとき、ロマ 4:16-24に私たちがしなければならないことが書かれています。信仰の父アブラハムがイサクを捧げることを信じておこなったように、私たちの人生もそうあるべきなのです。神様は信じて行う者を決して無にはしない方です。信じることは私たちの責任です。しかし、信じることは神様の力によって成ります。大切なのは私たちが信じようとする心、求めて探そうとする心です。変わらないのでなく変わろうとする心、できないのではなくやろうとする心が大切なのです。私たちはできないからやらない、どうせ無理とつい言ってしまいます。しかしそれでは夢は叶いません。諦めそうになるとき、本当にそれでいいのか自分に問い、犠牲を払って自分のためにしてくれた人がいることを思い出しましょう。もし奮い立って実践するならば必ず実が実ります。自らで整えて生きていかなければいけないことをもう一度、思い出しいきましょう。

■ 1 あなたの負債はリフレッシュ

私たちは神様の造ってくださった本来の姿になるように生きていく決断をしなければいけません。もし決断し信じて進むなら変わる力も変わる方法も神様が与えてくださいます。そのために自分を偽らず、そうなるべく生きましょう。そしてそれを隣人へも同じように、神様の前にその人が正しく生きれるように接していきましょう。

■ 2 疑うな！！

私たちはすぐ疑ってしまいます。しかし聖書には二心を持つものはすべてに安定を欠いた人とあるように『本当かなあ、でもなあ、どうせ私なんか・・・』と疑うことは最大の罪です。聖書には多くの信じて行った人のことについて書かれています。その人たちは特別な能力があったわけではありません。私たちと一緒に人でした。違うのは疑う心を捨て信じて行ったということです。ですから私たちも「やります。信じます。」と口先だけでいう無意味な人生を歩むのではなく、信じたのなら疑わずに信じ切って行う人生へと変えていきましょう。

■ 3 そうなるべく生きる

私たちは神様の造ってくださった本来の姿になるように生きていく決断をしなければいけません。もし決断し信じて進むなら変わる力も変わる方法も神様が与えてくださいます。そのために自分を偽らず、そうなるべく生きましょう。そしてそれを隣人へも同じように、神様の前にその人が正しく生きれるように接していきましょう。

まとめ

下記にケント・M・キースの「逆説的十戒」を記します。この中の一つでもできればイエス・キリストの生き方をあなたは生きることになります。この中であなたの好きなイエス様の姿はどれですか。そして自分はどうかを望みますか。イースターの今日、犠牲に立たれたイエス様のこの部分を担うと決断し、キリストの望みを引き継ぐ者として、必ず成ると信じて歩み出しましょう。

1. 人は不合理でわからず屋で、わがままな存在である。それでも人を愛しなさい。
2. 何か良いことをすると、隠された利己的な動機がある筈だと人に責められるだろう。それでもなお、良いことをしなさい。
3. 成功すれば、うその友人と本物の敵を得ることになる。それでもなお、成功しなさい。
4. 今日の善行は、明日になれば忘れ去られてしまうだろう。それでもなお、良いことをしなさい。
5. 正直で率直なあり方は、あなたを無防備にするだろう。それでもなお、正直で率直でありなさい。
6. 大きな考えを持つと、小さな考えしか持たない人に引き降ろされるかもしれない。それでもなお、大きな考えを持ちなさい。
7. 人は弱者を哀れむが、強者にしか従って行かない。それでもなお、弱者のために戦いなさい。
8. 何年もかけて築いたものが、一夜にして崩れ去るかもしれない。それでもなお、築き上げなさい。
9. 助けを求める人に助けの手を伸べると、反発されるかもしれない。それでもなお、人を助けなさい。
10. 世のために最善を尽くしても、その見返りにひどい仕打ちを受けるかもしれない。それでもなお、世のために最善を尽くしなさい。